臺燈るた見りよ上柱線中空

文政元年	武藏國荏原郡羽根田浦辨天境內	人民
同　五年	安藝國佐伯郡草津村	高木屋平左衛門
同　九年	長門國豐浦郡赤間關區彥島兜山	紀伊國箕島奈良屋勘兵衛
天保元年	伊勢國三重郡四日市港	該地人民協力
同　年　間	紀伊國日高郡三尾浦御崎	回船問屋
同	攝津國西成郡天保町西北隅	大坂三郷協力
同　二年	和泉國谷川港	藩主土屋采女正
同　五年	讃岐國那珂郡丸龜新堀港北岸	江戶有志者
同　六年	周防國吉敷郡東岐波村	部坂神兵衛
同　八年	阿波國板野郡小松新田村	藩　主
同　九年	讃岐國多度郡多度津港	多度津藩主京極高琢
同	豐前國企救郡白野江村	該郡小倉町僧清虛
同　十年	渡島國松前郡吉岡港	吉岡村大河宗三郎

明治六年四月一日　安乘埼燈臺
同　年六月十五日　伊豫國釣島燈臺
同　年七月一日　志摩國菅島燈臺
同　年九月一日　白洲燈臺
同　年九月十五日　汐岬燈臺
同　年五月一日　遠江國御前崎燈臺
同　年十一月十五日　下總國犬吠埼燈臺

一二、輝く光榮

イ、明治天皇の天覽

本燈臺の燈明機械は横濱燈臺寮即ち今の燈臺局試驗燈臺に裝置中、明治天皇陛下の天覽に供するの光榮に浴したのである。

明治七年第四十一號太政官日誌の拔萃によれば『明治七年三月十八日午後二時二十分、聖上、

皇后兩陛下ニハ宮城御出門、新橋ステーションヨリ汽車ニ乘御午後四時横濱ステーションニ著御聖上ニハ御乘馬、皇后宮ニハ御馬車ニ召サレ燈臺頭先驅ニテ燈臺寮ヘ臨御、同寮奏任官以下併御傭外國人一同寮門外ニ奉迎寮内ニ於テ暫時御休憩各國公使及本寮奏任官並御傭外國人ニ拜謁仰付ケラレ畢テ燈臺頭外國人首員（今ノ看守長）ノ御先導ニテ豫メ整置セラレタル諸器械ヲ叡覽在ラセラレ午後六時十分行在所ヘ還御」と記されてゐる。

ロ、皇太子殿下の行啓

明治四十四年五月二十日　大正天皇が未だ皇太子殿下に渡らせられた當時殿下には東宮侍從一條實輝、同侍從田内三吉、同本多正復、同甘露寺受長外供奉員を從へさせられ本臺に行啓あそばされたことがある。御臨台あらせられた殿下には先づ御座所に於て草間航路標識管理所長より一般航路標識及燈臺模型等を台覽に供し一々御説明申上げた所殿下にはいとも御熱心に聞召され統計圖中列國沿岸延浬程と燈標數との比較圖に付ては御下問さへ賜はつたとのことである。尚ほ殿下には霧笛號機關船船通報見張所等を御巡覽あらせられ午後二時御機嫌うるはしく御還啓あそばされた。